

第3学年 美術科学習指導案

3年2組 男子21名 女子19名 計40名

指導者 宮田 苑佳

【授業】9:40~10:30 会場 美術室(3階)

【協議会】10:45~11:55 会場 美術室(3階)

1 題材名 安らぎの空間 — 人と自然の憩いの場 —

(学習指導要領に関する内容) 第2学年及び第3学年

A 表現 (1) イ(ア)、(2)

B 鑑賞 (1) ア(イ)、イ(ア)

〔共通事項〕 (1) ア、イ

2 題材について

(1) 題材設定の趣旨

本題材では、利用する人の気持ちや、周りの環境との調和といった視点から、人と自然の憩いの場となる広場のデザインを考えさせ、コンセプト図として表現させる。私たちは普段何気なく眺めている都市の光景が、元からそのような形だったと思いがちである。しかし、人が意図して景観を生み出し、都市をデザインしている例が多くある。近年、各地で都市開発が行われ、幅広い年齢層にとって快適な空間や、自然環境に配慮した空間等、さまざまな視点から都市のデザインが考えられている。こうしたデザインは機能面だけでなく、美しさについても考えられており、人々から愛される空間となっている。生徒はこれまでの学習を通して、製品デザインや視覚伝達デザインを日常にある美術として認識している。しかし、都市のデザイン(ランドスケープデザイン)にも美術の考え方が隠れていることは、多くの生徒は気付いていない。本題材を通して、日常生活における幅広い美術の活用気付かせ、社会における美術の役割について考えを深めさせたい。

ランドスケープデザインを考えていくにあたって、デザインする「場所」の特徴をしっかりと分析することが重要となってくる。そこで本題材では、実際に存在する土地に設計するという想定で、デザインを考えさせることとした。導入として、多くの生徒が訪れたことのある富岩運河環水公園の鑑賞を行い、富岩運河と繋がっている岩瀬運河周辺に「人と自然が憩う場を設計する」という想定で制作に取り組みさせる。この二つの運河は富山市の発展に大きく寄与しており、富岩運河には重要文化財に指定されている中島閘門があったり、岩瀬運河周辺には古い町並みが多く残っていたりと、歴史的に価値のある場所である。また、それぞれの運河からは立山連峰を望むことができ、美しい景観を望める場所としての価値もある。ランドスケープデザインを考える際に考慮すべき点は多々あるが、本題材では「広場の用途」「周りの環境との調和」「利用者の視線や動線、気持ち」といった3つのポイントを設定し、場所の特徴を生かしつつ、利用者に考慮した広場のデザインを考えさせる。

本校美術科では、3年間の美術の学習を通して、個人の感覚で、他者とのつながりの中で、日常生活とのつながりの中で、一つの文化という大きな括りの中でと、視野を広げながら美術表現を捉えさせていくことで、美術が単体として存在しているのではなく、社会とのつながりの中で存在していることを生徒に学ばせたいと考えている。段階的に美術表現の捉え方を広げていくことで、美術科が目指す「生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力」の育成へと少しでも近づかずである。

(2) 生徒の実態

3学年の生徒は学習に意欲的に取り組む者が多い。これまで、生徒はデザインや工芸などに表現する活動において、美しい構成や装飾(1学年:服のカラーコーディネート)、視覚伝達デザイン(1学年:レタリング制作、2学年:ロゴマーク制作)、機能性と調和した美しさ(2学年:コップ制作)を学んできている。また、空間を意識した表現の学習としては、デザインの領域ではないが、2学年では枯山水の箱庭を制作し、3学年では作品がある場所に注目して、バンクシー作《花束を投げる男》やクリスト、ジャンヌ＝クロード作《包まれた凱旋門》を鑑賞してきた。生徒は、これまでの学習を通して、造形的な特徴と作者の意図との関連性に注目して、自分の考えを表現することができる。表現の活動では、自分の思いを表すのにより適した表現方法を試行錯誤しながら考えることができたり、鑑賞の活動では、作品の造形的な特徴を細かく捉え、作品のよさや美しさだけでなく、作品に込められた作者の思いに迫り、より深く作品を鑑賞することができたりする。しかし、構想の段階で悩んでしまい、自分のしたいことを明確にすることができない生徒や、独自性を追求するあまり、目的や条件をないがしろにしてしまう生徒もいる。そこで、本題材ではコンセプトの構築に重きを置き、制作は簡易的なものとする。具体的な手立てについては、指導の構えに示す。

(3) 指導の構え

生徒が自分の考えを明確にしながら、コンセプトを深めることができるよう、以下のような手立てを講じたい。

①グループ活動と個人活動のバランス

視野を広げるための意見共有の場と、自己の表現を吟味し深める場をバランスよく設定する。全員が相手に的確な意見を伝えられるよう、第1～3時間目では、意識すべき視点(広場の用途、周りの環境との調和、利用者の動線や視線、気持ち)を生徒と共通理解する。他者との意見共有を通して、自分のアイデアを客観視させ、独自性だけでなく、目的や条件をしっかりと押さえているかを吟味させたい。

②思考ツールの活用

ワークシートに思考ツールを導入し、発想を広げたり、自分の思考を整理してアイデアを深めたりする場面で活用する。すべての生徒が思考ツールを活用できるよう、生徒の実態に応じて、声掛けを行う。例えば、発想が広がらない生徒に対しては、些細なことでもアイデアを記入するように声を掛ける。また、発想が安直になりがちな生徒に対しては、そのアイデアに至った経緯等を生徒から聞き出した上で、考えの浅い点を指摘し、よりよいアイデアを書き加えられるように促す。思考ツールを活用しつつ、声掛けを工夫していくことで、生徒の思考が深まるように促したい。

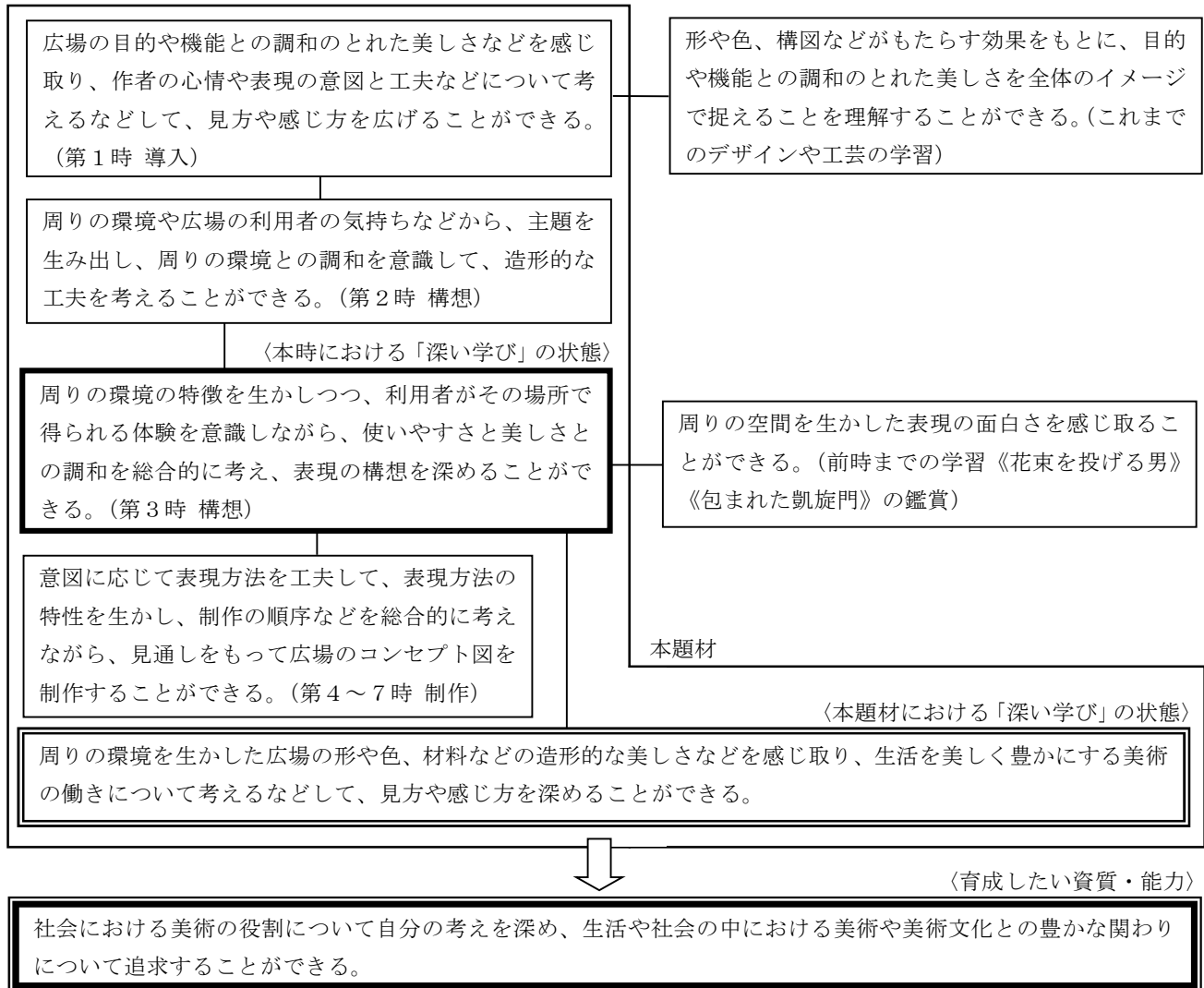
3 「見方・考え方」を働かせ、「深い学び」を実現する授業づくり

【仮説】

・個人の考えを広げる場(全体鑑賞、意見共有)と、個人の考えを深める場(構想、振り返り)を明確に分けて設定することで、自分の学びを整理することができ、「深い学び」を実感できる授業を実現することができる。

・「自分としての意味や価値をつくり出す」段階(振り返り、まとめ)において、個人の感性や想像力と知識([共通事項])の両方をバランスよく働くような発問を投げかけることで、「深い学び」を実現することができる。

本題材が目指す「深い学び」の状態



4 題材の目標

- 形や色、構図がもたらす効果を基に、広場の目的や機能との調和のとれた美しさを全体のイメージで捉えることを理解する。〔共通事項〕【知識】
- 意図に応じて表現方法を工夫して、表現方法の特性を生かし、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって美しい広場のコンセプト図を制作する。「A 表現」(2)【技能】
- ◎広場を設計する場所や用途などの条件を基に、広場の周りの環境や広場の利用者の気持ちなどから主題を生み出し、使いやすさと美しさとの調和を総合的に考え、表現の構想を練る。「A 表現」(1)【思考力、判断力、表現力等】
- 目的や機能との調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げる。「B 鑑賞」(1) ア (イ)【思考力、判断力、表現力等】
- ◎周りの環境と調和した広場の形や色、材料などの造形的な美しさなどを感じ取り、生活を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして、見方や感じ方を深める。「B 鑑賞」(1) イ (ア)【思考力、判断力、表現力等】
- 美術の創造活動の喜びを味わい、生活の中のデザインを愛好する心情を育み、主体的に広場の目的や機能等を基に表現したり、鑑賞したりする学習活動に取り組もうとする。【学びに向かう力、人間性等】

「深い学び」を評価するためのルーブリック

	深い学び	A	B	C
表現	広場の周りの環境や利用者の気持ちの両方を考え、目的や機能と美しさを両立したデザインを、コンセプト図として表現することができる。	Bの①～③に加えて、形や色、構成、材料の性質や働きを生かして、コンセプト図として表現することができる。	①広場の用途 ②周囲の環境との調和 ③利用者の視線や動線、気持ち ①～③を意識した工夫を考え、コンセプト図として表現することができる。	Bのいずれかが不足している。
鑑賞	目的や機能との両立のとれた美しさをどのように実現しているのか、造形的な特徴から表現の工夫や作者の意図を感じ取り、生活を美しく豊かにする美術の働きについて考えを深めることができる。	Bの①～③に注目して、個々の作品の美しさ、デザインの工夫や作者の意図を考える中で、生活を美しく豊かにする美術の働きについて考えを深めることができる。	①広場の用途 ②周囲の環境との調和 ③利用者の視線や動線、気持ち ①～③に注目して、デザインの工夫や作者の意図を考えたり、生活を美しく豊かにする美術の働きについて考えたりすることができる。	Bのいずれかが不足している。

「深い学び」が実現できている

5 全体計画（全8時間）

学習活動	知・技	思	態	評価規準・評価方法・留意点等
1 発想や構想（3時間）				
<p>1時間目 学習課題確認 「広場の目的や機能との調和のとれた美しさを考えよう。」 ○目的や機能との調和に注目して、広場のデザインを鑑賞し、表現の工夫やデザイナーの意図を感じ取る。</p> <p>見方 造形的な特徴と全体のイメージの関係（形、色、構成、材質） 考え方 「目的や機能」 「広場の目的や機能とは、どのようなものだろうか？」（全体） 「この公園（富岩運河環水公園）を訪れた人は、どのような気持ちになるだろうか？」（全体） 「この公園に人々が集うのは、どのような工夫があるからだろうか？」（個人→グループ→全体） 「人々は何を求めて、この公園に集うのだろうか？」 「癒しや安らぎが感じられるのは、どのような工夫があるからだろうか？」 ※広場で得られる体験と広場の造形の両方から考える。 「この公園に込められたデザイナーのコンセプトは、どのようなものだろうか？」（個人）</p>	知 ↓	鑑 ↓	態鑑 ↓	<p>留意点生徒にとって身近で、訪れたことのある生徒も多い公園として、富岩運河環水公園を取り上げ、自分の体験を基に考えるよう促す。</p> <p>指導に生かす評価形や色、構成がもたらす効果を基に広場の目的や機能との調和のとれた美しさを全体のイメージで捉えることを理解している。 【知識】（ワークシート）</p> <p>指導に生かす評価目的や機能との調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。【思考・判断・表現】（ワークシート）</p> <p>指導に生かす評価積極的に目的や機能との調和のとれた美しさに対する見方や感じ方を広げようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】（ワークシート、活動の様子）</p>

<p>2時間目 表現の構想を広げる 「周りの環境と調和した美しさについて考えよう。」</p> <p>○景観について賛否が分かれるようなデザイン例（小矢部市メルヘン建築等）を鑑賞し、周りの環境との調和を考えることの意義を理解する。その後、景観に注目して、富岩運河環水公園と小樽運河公園、流山運河水辺公園を比較する。（個人→全体）</p> <p>見方 造形的な特徴と全体のイメージの関係（形、色、構成、材質）</p> <p>考え方 「目的や機能」 「周りの環境との調和、独創性という視点で、三つの公園を捉えてみよう。」 「どのような特徴に、周りの環境との調和を感じる？」</p> <p>○富岩運河とも比較しつつ、岩瀬運河の特徴を整理し、デザインへの生かし方を考える。（個人⇄グループ）</p> <p>見方 造形的な特徴と全体のイメージの関係（形、色、構成、材質）</p> <p>考え方 「目的や機能」「自己の感情や考え」 「岩瀬運河周辺の環境の特徴をまとめよう。」 「岩瀬運河周辺の環境の特徴をどのように生かしていきたい？」</p>		<p>発 ↓</p>	<p>態表 ↓</p>	<p>留意点 視野を広げ、豊かな発想につなげるため、4人グループでの意見共有の時間を設ける。</p> <p>留意点 県外の運河周辺の公園の写真と富岩運河環水公園を比較させ、周りの環境との調和とは何かを考える。意見が偏らないように切り返しの発問を行う。</p> <p>指導に生かす評価 周りの環境と調和するように形や色、材質等の工夫を考えている。【思考・判断・表現】（ワークシート）</p> <p>指導に生かす評価 意見共有を通して視野を広げようとしたり、積極的にたくさんアイデアを出そうとしたりしている。【主体的に学習に取り組む態度】（ワークシート、活動の様子）</p> <p>留意点 必要に応じて描画アプリ等を活用させ、印象の違いを確認させながら、よりよいデザインの発想につなげる。</p>
<p>3時間目 表現の構想を深める〈本時〉 「利用者の立場に立って、広場のデザインを考えよう。」</p> <p>○利用者の視線、動線に注目して、富岩運河環水公園を鑑賞し、デザインの工夫点を考えることを通して、アイデアの構想に生かす。</p> <p>見方 造形的な特徴と全体のイメージの関係（形、色、構成） 造形要素の性質や働き（形、色、構成）</p> <p>考え方 「目的や機能」「自己の感情や考え」 「利用者の視線や動線に注目すると、どのような工夫が見えてくるだろうか？」 （「そのような工夫があることで、利用者はどのような体験をすることができるだろうか？」「そのような工夫があることで、利用者はどのような気持ちになるだろうか？」）</p> <p>○全体鑑賞を基にアイデアを練り、コンセプトを固める。（個人⇄グループ）</p>		<p>発 ↓</p>	<p>態表 ↓</p>	<p>留意点 地図アプリを活用することで、利用者の視線や動線について考えやすくする。</p> <p>記録に残す評価 周りの環境との調和だけでなく、利用者の動線や視線も意識し、利用者の気持ちに沿ったデザインを考えている。【思考・判断・表現】（ワークシート）</p> <p>記録に残す評価 周りの環境との調和だけでなく、利用者の気持ちも意識し、よりよいアイデアを追求しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】（ワークシート、活動の様子）</p> <p>留意点 「周りの環境との調和」、「利用者の視線や動線、気持ち」の2点のポイントを全体で共通理解し、グループで意見共有する際は、これらポイントに基づいて発言するように促す。</p>

<p>見方 造形的な特徴と全体のイメージの関係 (形、色、構成、材質)</p> <p>考え方 「目的や機能」「自己の感情や考え」 「利用者にどのような体験をしてほしいかを明確にし、広場の造形を考えよう。」</p>		<p>……</p> <p>発</p>	<p>……</p> <p>態表</p>	
<p>2 制作 (4時間)</p> <p>「周りの環境との調和、利用者が得られる体験を意識ながら、自分のアイデアをコンセプト図で表現しよう」</p> <p>○描画アプリとプレゼンテーションアプリを用いて、コンセプト図として表現する。</p> <p>見方 造形要素の性質や働き (色、構成) 造形的な特徴と全体のイメージの関係 (形、色、構成、材質)</p> <p>考え方 「自己の感情や考え」「目的や機能」</p>	<p>技</p> <p>↓</p> <p>……</p> <p>知技</p>	<p>……</p> <p>態表</p> <p>↓</p> <p>……</p> <p>態表</p>		<p>留意点制作中盤 (3時間目の最初) では、途中経過をグループで鑑賞し合う時間を設け、「周りの環境との調和」、「利用者の視線や動線、気持ち」の2点に基づいてアドバイスし合わせる。</p> <p>記録に残す評価意図に応じて表現方法を工夫して、表現方法の特性を生かし、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって広場のコンセプト図を制作することができる。</p> <p>【技能】(プレゼンデータ(作品、作品票))</p> <p>記録に残す評価美術の創造活動の喜びを味わい、意図に合った表現となるよう、工夫を重ね、よりよい表現を追求しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】(活動の様子、作品票)</p>
<p>3 鑑賞 (1時間)</p> <p>「広場の目的や機能との調和のとれた美しさを感じ取ろう。」</p> <p>○プレゼン形式で、相互鑑賞を行う。</p> <p>形、色、構成、材質の工夫から、作者が目的や機能との調和のとれた美しさをどのように実現しているかを感じ取る。(グループ→全体共有1～2人)</p> <p>見方 造形的な特徴と全体のイメージの関係 (形、色、構成、材質)</p> <p>考え方 「目的や機能」「自己の感情や考え」 「作者は、目的や機能との調和のとれた美しさをどのように実現しているだろうか。」</p> <p>○まとめとして、導入時に鑑賞した広場をもう一度鑑賞し、生活を美しく豊かにする美術の働きについて考える。(個人→グループ→全体)</p> <p>見方 造形的な特徴と全体のイメージの関係 (形、色、構成、材質)</p> <p>考え方 「目的や機能」 「広場のデザインの活動を通して、日</p>	<p>知</p> <p>↓</p> <p>……</p> <p>鑑</p> <p>↓</p> <p>……</p> <p>態鑑</p> <p>↓</p>	<p>……</p> <p>態鑑</p>		<p>記録に残す評価形や色、構図がもたらす効果を基に広場の目的や機能との調和のとれた美しさを全体のイメージで捉えることを理解している。【知識】(ワークシート)</p> <p>記録に残す評価目的や機能との調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を深めている。【思考・判断・表現】(ワークシート)</p> <p>記録に残す評価身近な広場の形や色彩、材料などの造形的な美しさなどを感じ取り、生活を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして、見方や感じ方を深めている。【思考・判断・表現】(ワークシート、振り返り)</p> <p>記録に残す評価友人の作品やデザイナーの</p>

<p>常生活における美術の役割について考えよう。」</p>		鑑	鑑態	<p>作品の鑑賞を通して、生活を美しく豊かにする美術の働きについて考えを深めようとしている。【主体的に学習に取りくむ態度】(振り返り、活動の様子)</p>
-------------------------------	--	---	----	---

6 本時の学習（全3／8時間）

(1) 指導目標

周りの環境との調和に加え、利用者の視線や動線（利用者が広場で得られる体験）に注目し、使いやすさと美しさとの調和を総合的に考え、よりよいデザインを追求できるようにする。

(2) 展開

学習活動と予想される生徒の反応	指導上の留意点
<p>1 学習課題を確認する。</p>	
<p>利用者の立場に立って、広場のデザインを考えよう。</p>	
<p>2 富岩運河環水公園を全体で鑑賞し、利用者の視線や動線を考えることの大切さを共通理解する。(個人→グループ→全体)</p> <p>問「利用者の視線や動線に注目すると、どのような工夫が見えてくるだろうか？」</p> <p>〔補助1〕「そのような工夫があることで、利用者はどのような体験をすることができるだろうか？」</p> <p>〔補助2〕「そのような工夫があることで、利用者はどのような気持ちになるだろうか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・急な階段の上り下りがないので、歩きやすい。ゆったり散歩できる。 ・道が少し複雑になっていることで、散策する楽しみが生まれる。 ・道路よりも下がった位置に広場があるため、下に降りると視界から道路が見えなくなる。安心できる。 ・道路に沿って街路樹が植えてあり、車や建物が遮られる。周りの視線を感じなくてよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・富岩運河環水公園の工夫を考える前に、広島平和記念公園の設計の工夫（資料館のピロティ、慰霊碑、原爆ドームが一直線上に配置されていること）を紹介し、視線や動線を意識した工夫を考えやすくする。 ・地図アプリのストリートビューを活用したりするなどして、現地のイメージをもちやすくする。 ・さまざまな立場の利用者を想定させ、それぞれの利用者にあったデザインの工夫を考えさせる。 ・1時間目の鑑賞で出された意見を取り上げながら、意見共有を進める。 <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建造物同士の間隔が広い。 ・道がゆるやかなカーブである。 ・視界を遮るものがなく、運河をまっすぐ見ることができる。 ・日陰になる場所がある。
<p>3 2で話し合ったことを基に、自分のアイデアを練る。</p> <p>問「利用者にはどのような体験をしてほしいかを明確にし、広場の造形を考えよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者には非日常を感じてほしいから、 	<ul style="list-style-type: none"> ・構想時間の途中に、グループや全体での意見共有の場（1～2人を取り上げる）を設け、「利用者の視線や動線、気持ち」、「周りの環境との調和」の視点でアドバイスさせ合う。 ・利用者の体験を重視し、奇をてらったアイデア

<p>外の建物がなるべく見えないように、街路樹で広場の周りを覆いたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冒険感覚で散策できるよう、トンネルを作りたい。日陰スポットにもなる。 ・平坦な道だと風景が単調に見えてしまうから、高低差を付けて、風景をいろいろな角度から楽しめるようにしたい。 ・利用者の視界に入ってくるものが、海や山の青色、周りの建造物の灰色であるから、暖色系の色を遊歩道に用いて温かみのある空間にする。 <p>4 次回の授業に向けて、本時の振り返り、コンセプトを記述する。</p> <p>問「利用者にとどのような体験をしてもらいたい？」</p> <p>問「利用者にとどのような気持ちになってほしい？」</p> <p>問「そのために、制作において、特にどのようなことを大切にしていきたい？」</p>	<p>アに対しては、「周りの環境との調和」の視点で、アイデアを見直すように促す。</p> <p>・振り返りの記入によって、作品コンセプトを明確にさせ、明確な意図をもって制作に臨めるようにさせる。</p>
---	---

(3) 学習評価の観点

- ・ 周りの環境との調和に加え、利用者の視線や動線を意識して、作品のコンセプトを深めることができる。【思考・判断・表現】（ワークシートの記述、発言）
- ・ 周りの環境との調和と利用者の気持ちの両方を意識し、よりよいアイデアを追求しようとしている。【主体的に学習に取りくむ態度】（振り返りの記述、活動の様子）

7 授業観察の視点

- ・ 意見共有の場は、生徒の視野を広げたり、思考を深めたりすることに有効であったか。
- ・ 授業者の発問は、生徒の視野を広げたり、思考を深めたりすることに有効であったか。

主な参考文献

- ・ 菅野博貢『空間から読み解く環境デザイン入門』彰国社、2021年
- ・ 日本建築学会（編）『親水空間論』技報堂出版、2014年
- ・ 小野寺康『広場のデザイン「にぎわい」の都市設計5原則』彰国社、2014年
- ・ 宮脇勝『ランドスケープと都市デザイン—風景計画のこれから—』朝倉書店、2013年